

UBIC、重要な文章を抽出する技術について、 日本で特許を取得

人工知能が文書全体から重要な文章のみを抽出し、要約としてユーザに提示

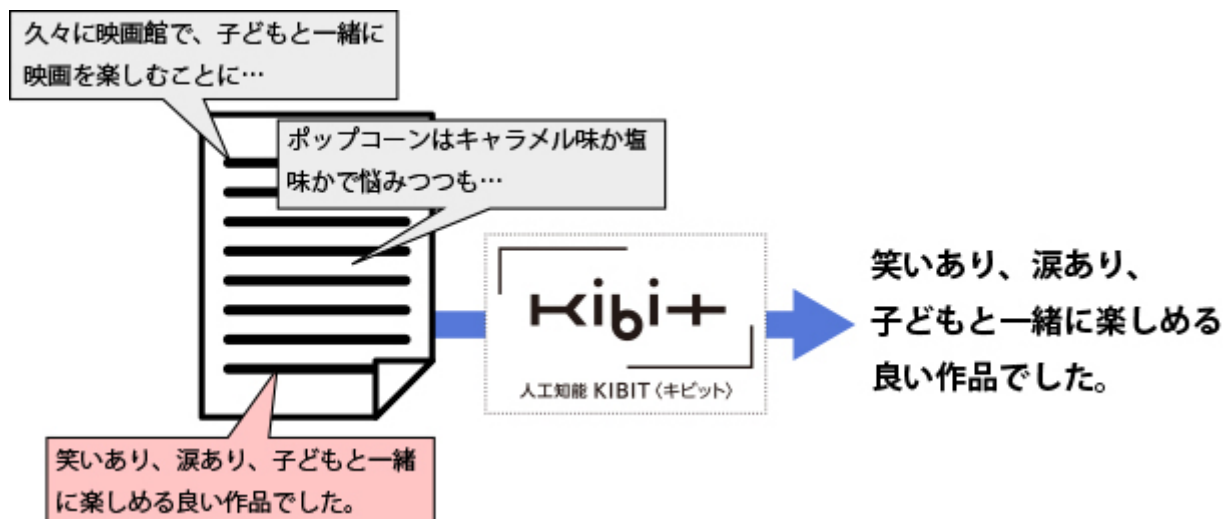
米ナスダックと東証マザーズに上場し、人工知能を駆使したビッグデータ解析事業を手がける株式会社UBIC（本社：東京都港区、代表取締役社長：守本正宏）は、人工知能が重要な文章を抽出し、要約としてユーザに提示する技術について、特許査定謄本を日本特許庁より受領いたしました。このたび、特許登録のための手続きが完了いたしましたので、お知らせいたします。

記

出願番号：特願2015-558244 ※登録番号未付与

特許出願日：平成27年（2015年）11月27日（優先日：2015年5月22日）

デジタルマーケティングの領域には、ウェブサイトに含まれるテキスト情報がビッグデータとして存在します。今回特許を受けた技術は、KIBITがこのビッグデータを分析することにより、レビューサイトに投稿されたコメントからユーザにとって価値の高い本質的な部分（「おもしろかったです!」といった結論など）を抽出する技術です。これによりユーザは「どんな作品か分かる」情報のみをインターネットから素早く発見することができます。





当社は、人工知能応用技術の研究開発・知的財産獲得をさらに推進することにより、今回特許を受けた技術の主な適用領域であるデジタルマーケティングをはじめ、医療・ヘルスケア、ビジネスインテリジェンスなどの領域で、多様なデータ解析ソリューションへの展開を目指しており、その実現によって、よりよい未来の創造に邁進してまいります。なお、本件における通期業績に与える影響は軽微です。

※特許査定は、特許庁審査官による審査の結果、発明に対して特許権付与が承認されることをいいます。特許査定後、出願人が登録料を納付することにより、特許発明が登録原簿に登録され、特許権が発生するとともに、登録番号が付与されます。

※Lit i View は、当社の登録商標です。

【UBIC について】 URL: <http://www.ubic.co.jp/>

株式会社 UBIC は、独自開発の人工知能エンジン「KIBIT」により、ビッグデータなどの情報解析を支援するデータ解析企業です。国際訴訟などに必要な電子データの証拠保全と調査・分析を行う e ディスカバリ（電子証拠開示）や、コンピュータフォレンジック調査を支援する企業として 2003 年に創業。自社開発のデータ解析プラットフォーム「Lit i View®（リット・アイ・ビュー）」、アジア言語に対応した「Predictive Coding®（プレディクティブ・コーディング）」技術などを駆使し、企業に訴訟対策支援を提供しています。訴訟対策支援で培った UBIC 独自の人工知能は、専門家の経験や勘などの「暗黙知」を学び、人の思考の解析から、未来の行動の予測を実現、最近では医療やビジネスインテリジェンス、マーケティングなどの領域に人工知能を活用し、事業の拡大を進めています。2003 年 8 月 8 日設立。2007 年 6 月 26 日東証マザーズ上場。2013 年 5 月 16 日 NASDAQ 上場。資本金 1,688,433 千円（2015 年 3 月 31 日現在）。

〈本件に関するお問合せ先〉

株式会社 UBIC 広報担当 池内

TEL: 03-5463-6380 FAX: 03-5463-6345